

令和3年度 産学官金連携交流会 Campus Meeting

持続可能な地域社会の構築を目指す大学の貢献

参加無料
要申込

12/9 (木)

帯広畜産大学 講堂
& Zoom (オンライン)

13:15～14:30 大学見学会

施設見学や研究室訪問による大学教員との意見交換の場に。

対象 企業等集積プラットフォーム参画機関限定。詳細は裏面をご参照ください。

15:00～17:45 (開場 14:30) 講演会

対象 企業・団体・生産者・自治体・金融機関・教育研究機関・一般の方どなたでもご参加いただけます。

講演会プログラム

- 15:00～15:10 開会挨拶 理事・副学長 井上 昇
- 15:10～15:45 基調講演
- 15:40～16:20 オープンイノベーション促進共同研究紹介
～三大学経営統合に向けて～
- 16:20～16:40 休憩
- 16:40～17:10 地域・地元企業との取り組み紹介
- 17:10～17:40 畜大 新任/若手教員研究紹介リレー
- 17:40～17:45 閉会挨拶 産学連携センター長 大庭 潔

申込方法 締切: 12/2 (木)

申込みフォームまたは裏面の参加申込書にて
お申し込みください。



<https://forms.gle/ZHpXmXbALivlvBKPA>

【新型コロナウイルス感染症対策について】

1. 会場の座席は間隔を空け、十分に換気を行い、三密を回避します。
2. 発熱や風邪症状のある方の大学への入場はお断りいたします。
3. 流行状況により、講演会(オンライン)のみの開催に変更する場合があります。

【主催】帯広畜産大学 【共催】とちぎ財団/小樽商科大学グローバル戦略推進センター/北見工業大学社会連携推進センター
【後援】帯広市/北見工業大学オホーツク農林水産工学連携研究推進センター/北見工業大学地域と歩む防災研究センター

基調講演

北海道における再生エネルギーの現状と展望
～バイオガスプラントが地域環境・社会にもたらす未来～

北海道大学 大学院工学研究院 環境工学部門
教授 石井 一英

オープンイノベーション促進共同研究紹介

地盤工学でチャレンジする十勝特有の大規模農地の時空間
水収支シミュレーションと農業への応用
～防災技術を農業へ活かした分野横断研究～

北見工業大学 地域と歩む防災研究センター
センター長 / 准教授 川尻 峻三
帯広畜産大学 グローバルアグロメディシン研究センター
助教 木下 林太郎

地域・地元企業との取り組み紹介

自然環境と調和した農畜水産未利用資源の循環活用

帯広畜産大学 産学連携センター
特任教授 宮下 和夫

畜大 新任/若手教員研究紹介リレー

- ① 生物系未利用資源の化学工学的処理技術
環境農学研究部門 准教授 吉川 琢也
- ② 地域未利用資源を使った肉牛のブランディング
生命・食料科学研究部門 教授 撫 年浩

2021年12月9日（木）

締切：12月2日（木）

帯広畜産大学 産学官金連携交流会 参加申込書

必要事項をご記入のうえ、
メールまたはFAXにてご送付ください。

E-mail： crcenter@obihiro.ac.jp
FAX ： 0155-49-5775

お名前	
ご所属・役職等	
電話番号	
メールアドレス（必須）	
申し込み内容	<p><input type="checkbox"/> 研究室と施設の見学会（※企業等集積プラットフォーム参画機関限定）</p> <p>見学を希望する施設 ※下記①～③の中からお選びください。 第1希望（ ） 第2希望（ ）</p> <p>見学を希望する理由 （ ）</p> <p><input type="checkbox"/> 講演会 参加方法（現地 ・ オンライン） ※オンラインの参加方法については別途ご案内いたします。</p>

【研究室等の見学会について】（※企業等集積プラットフォーム参画機関限定）

見学会参加をご希望される方は、下記の3種類からご希望の箇所をお選びください。
各施設の定員は5名程度ですが、見学希望者多数の場合は抽選いたします。
見学場所が決まりましたら、12月6日（月）にメールでお知らせいたします。



※新型コロナウイルス感染症の流行状況により、中止となる場合があります。
※具体的に本学との共同研究を検討している方を優先させていただきます。

※企業等集積プラットフォームへの参画を希望される方は、HP (<https://www.obihiro.ac.jp/facility/crcenter/platform>)
よりお申し込みください。

【アクセスマップ】

① 西田研究室

（メタン抑制でエネルギー利用効率改善と地球温暖化防止）

反芻家畜は微生物の力を借りて草を消化する際、メタンガスを生成しゲップとして大気中に放出します。食べたエサの10%程のエネルギーがこのメタンとして、牛乳や肉生産に使われないまま失われます。またメタンガスは二酸化炭素の25倍地球温暖化に及ぼす影響は大きいです。エサを工夫してゲップのメタンを減らし、エネルギー損失や地球温暖化を防ぐことを目指します。

② 大西研究室（新小麦品種を作る）

「スペルトコムギ」という小麦の古い在来品種は、不良環境への適応能力など近代の小麦にはない優れた特性を持っていることが分かってきました。また、パンにしたときの独特の味や香り、高い栄養価から現在再び栽培が広がっています。私たちは、「スペルトコムギ」の遺伝資源としての価値を再評価し、大学発の新たなパン用コムギ品種の開発にチャレンジしています。

③ 共同利用設備ステーション

共同利用設備ステーションでは、全学的な研究設備・機器の共用促進と整備等のマネジメントを行い、学内外の利用を促進しています。



【個人情報の取り扱いについて】（1）帯広畜産大学が保有する個人情報は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」等の法令を遵守するとともに、「国立大学法人帯広畜産大学保有個人情報管理規程」に基づき、保護に万全を期しています。（2）お申込み時にお知らせいただいた氏名、住所等の個人情報については、本学産学官金連携交流会等の案内業務を行うためのみ利用します。（3）講演等をより効果的にするために、講師へ所属機関・氏名を提供することがあります。